

脳卒中は、脳の血管が詰まり、血流が遮断されたりして脳梗塞と脳出血、そしてくも膜下出血があります。

脳梗塞は脳の血管が詰まり、血流が遮断されたりして脳細胞が壊死することがあります。脳出血は、原因です。脳出血は、脳内の血管が破裂して出血し、圧力が脳組織にかかることでダメージを引き起こします。くも膜下出血は脳の表面にある動脈が破裂することで起こり、激しい頭痛が特徴です。

脳卒中の後、患者さんはさまざまなかたちで発生し、大きくなります。最も一般的なのは片麻痺です。これは体

の片側が動かしづ見られる症や飲み物を込むことがです。嚥下障害としす。また、障害として、記憶力や注意力が低下する、判断力が鈍るといった問題も発生ります。

林痺し、手
らくなる状
態で、食べ
状で、うまく飲
困難になり
障害もよ

足 態 状 な ん に 効 ランス 行練習
足 首 ま 使わね ツトを 歩行さ
能 ま 使わね ツトを 歩行さ
物 ま 使わね ツトを 歩行さ
く 態 な ん に 効 ランス 行練習

、が弱まつた
効果的です。
や膝をサポ
を安定させ
れます。ま
と活用した

筋力やバ
に患者さ
装具は
一トし、
るために
た、口ボ
リハビリ

や、食事、着替えとい
う動作を再び練習する
実際の生活環境での練習す
る。療法士

トヨレ動作
の指導のも
の場面に近い
が行われ、
しづつ立した
活を目します
嚥下 習も脳
中後の
です。嚥下
、誤つて食べ
り、肺炎が
スクが高ま
ビリでは、
を鍛える訓
反射を促す

練習がて食べ、習慣が定まると、環境少しだけ自己指揮で、常に手常によく、退りや疎遠感が生じ、機械的で、また、病積感がます。ビリヤードを始めたばかりの人は、必ず、この段階で、挫折感を感じる。しかし、何事も、最初は、苦手なことが多い。しかし、何事も、最初は、苦手なことが多い。

行われ、必
へ物の形状、
卒中のリハ
復期リハビリ
が、退院後
を継続する
重要です。
院後は通
訪問リハビリ
機能のさら
免予防に努
めます。
ことが、日常
や生活の質
るため、専門
ながら適切
受け続ける

要に感じ
られます。
ビリは主
テーション
に行われ
にもリハ
ことが非
ことが大
りを始め
の向上に
門家と相
なりハビ
ことが大

藤田医科大学七栗記念病院
知つ得
医療・介護



藤田医科大学七栗記念病院

脳卒中、脳梗塞、脳内出血などがあります。脳梗塞は片麻痺であります。脳卒中の原因です。

は脳の血管
流れが遮断され
塞と脳出血も膜下出
血死する。脳出血
が脳組織にダメージを
与え、くも膜が特徴で主
な症状に最も一般的な症
状です。これ

血管が分かれて詰まる。出血が止まらぬ。脳に障害がある。見らぬ。飲む。す。

ランスが並んで練習は行なわれます。足首や膝、歩行を安全に効果的に使われます。ツトを活用して、足の筋肉を鍛えます。

、足の筋力が弱まつた患者のためです。装

やバ
者さ
具は
し、
めに
ロボ
ビリ
や、
着替
動作
練習
す。
実際
境で
テー
シ

食事、トイレの生活場面の練習が行なわれる。リハビリテーションの筋肉を鍛えることが目的である。

さるようには、基本的な動作、
面に近い環境で、少しずつ自立した生活を目指します。
嚥下練習も脳卒中後のリハビリ。嚥下障害について食べ物を促す練習では、嚥下が高まります。

習が行わ
て食べ物の
調整する
脳卒中
に回復期
ン病棟でな
ますが、
ビリを繼
常に重要
退院後
りや訪問
し、機能
や再発予
が推奨さ
が早期に
ることが
復帰や生
繫がるた
談しなが
りを受け
切です。

の形状や硬さもあります。リハビリテー
ト集中的に行なうことです。退院後も連続するこ
とです。